

2025 年 1 月 27 日

報道機関 各位

## 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）に採択 プラネタリーヘルスの実現を目指し、世界を牽引する大学へ

本学は 1 月 24 日、文部科学省が実施する**令和 6 年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」**（以下、「**本事業**」）に採択されました。

本事業は、強みや特色ある研究、社会実装の拠点等を有する国公立大学を対象としており、研究力の飛躍的向上に向けて 10 年後の大学ビジョンを描き、そこに至るためのプロセスを構想し、強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下、他大学との連携等を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速・レベルアップの実現に必要なハードとソフト双方の環境構築の取組を支援するものです。

なお、令和 4 年度第 2 次補正予算により、「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」（以下、「**施設整備事業**」）が実施されており、**本学は、令和 5 年 4 月に施設整備事業にも採択**されています。

### 【本学の提案概要】（別図参照）

本事業で、**本学の強み【※1】**である、グローバルヘルス・グローバルエコロジー・グローバルリスクの 3 領域において、人類と地球の抱える多様で相互に関連する問題群に取り組む**超領域型融合研究の推進**を掲げました。この取り組みを通して、新しい知を創造するとともに、総合知人材を輩出し、プラネタリーヘルス実現に向けて国際社会を牽引する総合大学へと飛躍するため、本学・宮崎大学・鹿児島大学の 3 大学連携体制を構築し、**主に以下【※2】に示す取組を実施**します。

### 【※1】特色ある研究領域と本学の強み

- ①感染症研究を中心としたグローバルヘルス領域（BSL-4 研究施設 等）
- ②原発事故・核兵器廃絶に取り組むグローバルリスク領域
- ③共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）を展開するグローバルエコロジー領域
- ④駐在型海外拠点（ケニア・ベトナム・ブラジル）
- ⑤プラネタリーヘルス学環：Doctor of Public Health を世界に輩出

### 【※2】主な具体的取組

- 取組① 経営基盤の強化（外部資金獲得強化等）
- 取組② 若手研究者の獲得・育成（研究費支援及び外国人研究者のキャリア形成支援等）
- 取組③ 研究支援体制の強化（URA の増員及び育成等）
- 取組④ 総合知人材の育成（研究科等連係課程プラネタリーヘルス学環の新課程設置）
- 取組⑤ パンデミック予測研究の強化（宮崎大学・鹿児島大学との研究協働チーム形成等）
- 取組⑥ グローバルリスク国際ネットワークの整備（国際機関との連携協定締結等）
- 取組⑦ イノベーションと社会実装の加速（地球未来オープンリサーチセンター設置等）

### 【連携等機関】

宮崎大学、鹿児島大学、大阪公立大学、北海道大学、東京大学、国立感染症研究所、  
国立国際医療研究センター、海洋研究開発機構

### 【施設整備事業】

坂本キャンパスに「統合感染症研究棟」を建設中（令和 7 年 3 月竣工予定）

※1 月 30 日 10:30～開催予定の本学定例記者会見において本件に関する概要説明を行います。

### 【参考】

#### ・文部科学省 HP

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の令和 6 年度採択大学が  
決定しました

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/2023/mext\\_00014.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2023/mext_00014.html)



「地域中核・特色ある研究大学の連携による 産学官連携・共同研究の施設整備事業」の  
採択大学を決定しました

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/2023/mext\\_01231.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2023/mext_01231.html)



#### ・日本学術振興会 HP

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）／採択大学

<https://www.jsps.go.jp/j-chukaku/saitakudaigaku.html>



### 【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学研究国際部研究推進課（担当：青田、坂田、黒田）

TEL：095-800-4111 E-mail：kensien@ml.nagasaki-u.ac.jp

## 事業概要

連携大学：宮崎大学、鹿児島大学 参画機関：大阪公立大学、北海道大学、東京大学、国立感染症研究所・国立国際医療研究センター、JAMSTEC



# ＜10年後の大学ビジョン＞ プラネタリーヘルスの実現を目指し、世界を牽引する大学へ

— グローバルな課題解決のためのイノベーションを生み出す大学経営改革 —

長崎大学は、人類と地球の抱える多様で相互に関連する問題群に取り組む **超領域型融合研究** を推進し、科学的知見に基づく解決策を見出し、その社会実装を進める総合知人材を育て、**プラネタリーヘルスの実現\*** を牽引する

\*地球温暖化や水資源・食糧問題・パンデミックの発生等の地球上の問題を解決するため人間の意識・行動・価値観の変容を促す新規概念であり、地球の健康を支えるための答えを探索する取組み。

### 特色ある研究領域と本学の強み

- ① 感染症研究を中心としたグローバルヘルス領域 (BSL4研究施設、ロンドン大学とのJoint PhD Degree Program)
- ② 原発事故・核兵器廃絶に取り組むグローバルリスク領域 (福島復興支援事業を含む)
- ③ COI-NEXTブルーエコノミーを展開するグローバルエコロジー領域
- ④ 駐在型海外拠点 (ケニア・ベトナム・ブラジル)
- ⑤ プラネタリーヘルス学環: Doctor of Public Healthを世界に輩出 (外務省、厚生労働省、JICA、NCGM・NIIDとの強い連携)

### 研究力向上の戦略概要

- ① 持続的イノベーションを生み出す経営基盤強化
- ② 長崎—宮崎—鹿児島の西南九州3大学連携を起点とした国際ネットワークの形成と国際共同研究推進
- ③ グローバル研究推進体制の強化と支援人員増強
- ④ 大学院生および若手研究者確保のための支援体制、研究環境の整備
- ⑤ 国際共同研究強化のための海外拠点の増設と機能強化
- ⑥ 3領域に研究センターを設置し超領域型融合研究を展開

### 取組① 経営基盤の強化

1. アドバイザリーボードの設置 (海外機関・企業の有識者含む)
2. Development Office の設置によるファンドレイジング
3. 海外拠点の活用
4. 国際アルumnaiネットワークの拡大
5. ネーミングライツ、不動産活用など収益事業の強化・拡大
6. エンダウメント投資の拡大

### 取組② 若手研究者 獲得・育成

1. 若手研究者の重点的支援
2. 研究時間の量と質の確保
3. キャリアパス支援
4. 博士課程学生の処遇改善
5. 外国人研究者・留学生支援

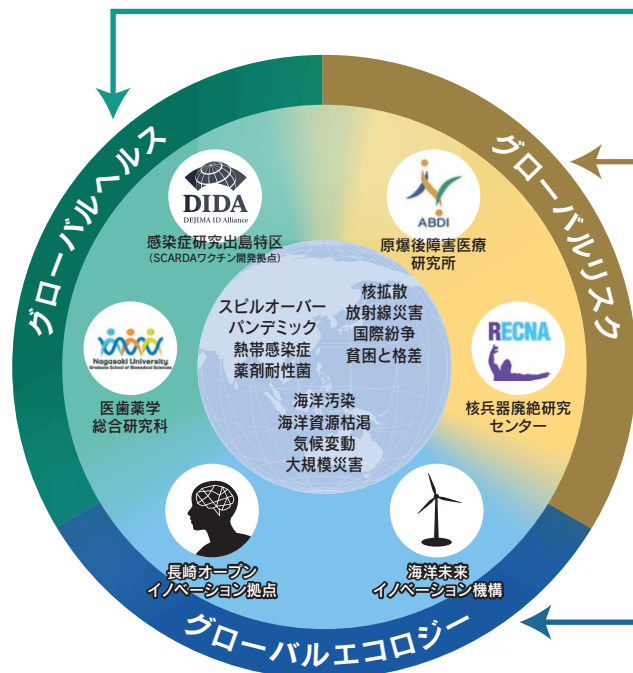
### 取組③ 研究支援体制の強化

1. URAの重点的配置・育成
2. 海外グラント支援部門設置
3. 国際化対応事務職員の増加
4. 共用設備の確保・技術職員の育成
5. 融合研究ファシリテーター教員配置
6. 海外リエゾン教員配置

### 取組④ 総合知人材育成 研究科等連係課程プラネタリーヘルス学環

第2の学位プログラム：グローバルリスク博士課程 (定員5名) 令和8年開始  
第3の学位プログラム：グローバルエコロジー博士課程 令和11年開始に向けた準備

## ヘルス・リスク・エコロジーの 超領域型融合研究を推進



### 各領域ごとのミッションと具体的取り組み

#### 取組⑤ パンデミック予測研究強化

感染症専門家集団に加え、データサイエンス、教育分野の人材が協働して次のパンデミックに備え、**持続可能な人類社会を構築**

1. パンデミック総合研究センター設置 (施設整備事業)
2. 宮崎大学・鹿児島大学とのスピルオーバー研究協働チーム形成
3. 気候変動の健康影響研究基盤構築 (JAMSTEC、東京大学大気海洋研究所との連携構築)
4. 国際感染症情報データ部門の設置
5. 感染症リテラシー部門の設置

#### 取組⑥ グローバルリスク国際ネットワーク整備

感染症・核拡散・国際紛争・地球規模の環境変化などによりグローバルリスクが深刻化、複雑化するメカニズムを解明し、解決に資する画期的政策を**世界に発信・実現**

1. グローバルリスク研究センター本格稼働
2. 国際機関・海外のリスク研究所との連携協定締結
3. 国際会議の開催誘致
4. 福島未来創造センターとの協働並びに福島国際研究教育機構F-REI・福島県立医科大学・福島大学との連携強化
5. 鹿児島大学地域防災研究センターとの社会インフラレジリエンス研究推進

#### 取組⑦ イノベーションと社会実装の加速

海洋資源・食料・エネルギー・水・炭素の循環型社会構築のための新たな発想での**イノベーション**を行い、地球の健康を守る科学を推進し、社会実装を実現

1. 地球未来オープンリサーチセンター設置
2. 里海カーボンニュートラルモデル構想加速
3. 宮崎大学GX研究センターモデルとの協働による洋上風力—潮流—地熱—太陽光発電—蓄電—水素製造技術の連結
4. 宮崎大学農学部海洋生物環境科学科との共同研究
5. 水資源循環総合研究チームと森林緑地環境研究の融合